

第4回 共生社会被災者支援の会 議事録

日時 2011年4月21日(木) 午後6時30分から

場所 梅田サテライト 207号室(会議室)

参加者 柏木宏、阿久澤麻理子(以上、教員)、阪野修、尾崎力、新家潤子、後藤陽子、前川武志、岡田高明、岩山春夫、中子富貴子

1) 気仙沼報告(阪野)

- 気仙沼高校進路指導の佐藤先生からの被災地状況
気仙沼の被災状況の激しさを知る。現地の被災状況や衛生面での問題などから、安全なボランティア活動がどこまで可能かが課題となる。
- 気仙沼大島の支援活動を主に行なっている小野寺容(ひろし)氏との面談報告
小野寺氏は新月地区の有名な旧家で自宅に独自で支援物資を集めて活動を展開している。連休中の「がんばろう! つばさネットワーク」主催のボランティア活動のために宿泊・風呂・食事などの協力を得ることができそうだ。
- 熊吉建設社長宅にて設計士である藤田氏や市長の関係者および、階上中の避難所責任者である市会議員の守谷氏と面談
藤田氏や市長関係者からは比較的 안전한川の掃除の提案がなされるが、守谷氏からは危険度が高いと大反対を受ける。高校生によるボランティア活動に厳しい意見もあったが、最終的に高校生が「災害の現場で何を学ぶか」をテーマに協力の承諾をもらう。
- 教育委員会との面談
避難所掃除には賛成してもらえたが、状況が流動的なため実際現地に行っても成立しない可能性がある。
- ボランティアセンターのカマタ氏との打ち合わせ
連休中の活動について「バスパック」登録の説明を受ける。ボランティアセンターでは5月の連休に向けて町内会に対しボランティアニーズを募集している。「避難所大掃除」が決まれば「バスパック」からは外れることを協議した。

2) ボランティアの参加状況(藤井・阪野)

募集定員の40名は既に達しており、キャンセル待ちが6人いる。さらに大阪府大生や坂口さんから依頼のあった4名は、別途小型バスをチャーターする可能性など協議した。

3) 現地でのプログラムについて

- 新月中の学校再開に伴う避難所の整理や清掃などは危険がなく、安心してできる活動だと思う。ただし、状況により成立しない可能性もある。
- 川掃除に関しては、次の日に予定地を視察したが、守谷氏の言われるとおり危険要素が多くほぼ断念する。

- ボランティアセンターの「バスパック」については、宮城県社協を通じて申込するが、どんな仕事にあたるかは2～3日前にならないとわからないようである。
- 守谷氏から高校生に直接講話してもらうなど、高校生ならではのプログラムも組める可能性はある。

4) 今後の準備事項

準備物について

- ボランティアをする人のために気仙沼のボランティアセンターのホームページにボランティアに必要なもののリストが掲載されているので参考にしたほうが良い。マスクや厚底靴、軍手、ゴム手袋などもそこに載っている。
- 粉塵対策のためのマスク、軍手、ゴム手袋などは個人で持ってくるとなると品質や数の面でバラツキがあって不安なので支援金を使って一括購入したほうが良い。
- 食料や水については小野寺氏宅や避難所で提供いただけるものもあるかもしれないが、カップ麺や水などは大量購入して残ったら現地に差し上げたほうが良い。
- 更衣室については、テントを持参するという案もあったが現地でテントを広げるのは被災された方の感情を考えると雰囲気的に難しいのではという意見がでた。

交通に関して

- 気仙沼へ行くルートについてはバス会社の判断を踏まえ検討しているが、北陸道から入ることになるとみられる。到着は、5月3日の朝の予定。
- 今回は参加者が多いのと、現地での多様な活動ニーズ(緊急の際の運搬などを含め)に対応するためにバス以外の車での確保も考えた方がよいのではないかという意見がでた。

ボランティア研修について

- 高校生が被災地でボランティアをするにあたり、ボランティア活動の基本を学んでから現地へ行ったほうが良いのではないかと。
- 柏木先生より大阪ボランティアセンターのほうへお願いをする。

今後の詳細な活動計画については、4月27日(水)6時30分からの会合にて行なうこととした。

文責：後藤陽子